

E-7 女子青年の人格形成に及ぼす影響について(第6報)

帯広大谷高 山田昌子

目的 女子青年は将来の家庭生活にたいしてどのように考えているのだろうか。また自分たちが親になった時、子どもにはどのように考えて接しようとしているのか。これら家庭生活のパターンを形づくる上に最も大きく影響を及ぼしてゆくのは何かを、第5報で行ったグループ即ち環境や経験の異なった女子青年を対象に調べてみることにした。

方法 1. インタビューにより次の項目について、第5報で行ったグループ即ち問題の生じた子(A両親の揃っている子の場合、B両親のいづれか片方または両方いない子の場合)と、問題の生じない子(A両親の揃っている子の場合、B両親のいづれか片方または両方いない子の場合)と比較する。2. 上記のグループに、質問紙を用いて子どもにたいしてどんな態度で接しようとしているのか、将来的な子育ての具体的な考えをみる。また第2報で行った子(4名)と抜粋して、認知差の大小との関係を見る。

結果 以上の調査から解ったことは、思春期に於ける様々な経験の中での好ましい経験、好ましくない経験を自分の目で確かめながら、家庭づくりへの一つの大きな方向づけをしている。思春期の経験は如何に大切であるか、これらの経験は人生に於て結婚観、家庭観、子供観、親観を決定させる重要な役割りをなしていることを知った。